

論壇

地球規模経済常に直面

グローバル経済は常に金融市場の破綻というリスクに直面している。最近の大きな金融市場の混乱の事例を挙げてみると、1990年代後半の日本での金融危機やアジア通貨危機、2000年の米国におけるITバブルの崩壊、08年のリーマン・ショック、12年のギリシャ危機など、5年に1度ぐらいの頻度で大きな金融危機が起きる。

特に08年のリーマン・ショックは世界経済を巻き込み、50年か100年に1度の経済危機とまで言われた。金融危機に直接関係のな

伊藤 元重 (国際経済学) 大学院教授

かった日本できえ、自動車などの輸出の減少で大きな痛手を被った。

経済がグローバル化するほど貿易や国際投資による経済利益は拡大するが、それと同時に多くの国が市場リスクに直面することになる。世界のどこかで起きた変化が燎原の火のように世界に広がる

や途上国でも、景気拡大が続いている。

しかし、世界経済の状況をよく見ると、不気味な動きがないわけではない。世界経済を牽引して絶好調に見える米国だが、資産バブルや過剰な金融膨張を懸念する声が広がっている。過剰な金融緩和を長く続けてきた結果、金

忍び寄る金融市場リスク

可能性があるのだ。

08年のリーマン・ショック以降は、欧州で起きたギリシャ危機を除けば、世界経済は順調に推移してきた。そのおかげもあって、現在の時点では世界経済は順調な拡大を続けている。米国でも欧州でも日本でも、そして多くの新興国

融市場に過熱が起きているという声だ。

もう一つの懸念は、世界第2位の規模となった中国経済の状況である。米国との貿易摩擦の影響を受けて、中国経済の状況は徐々に悪化している。日本や欧州などの企業の中にも、中国での生産を他

の地域に移す検討を始めている企業が出てきている。米中の貿易戦争が長引くようだと、海外から中国への投資にも影響が出てくるだろう。元々、不動産バブルなどが懸念されていた中国経済である。中国の金融市場や不動産市場が変動を来すことが懸念される。

回避困難、対応策が重要

欧州でも異変が起きている。英国のEU（欧州連合）からの離脱のプロセスがどうなるのか英国内での政治的問題となっているが、離脱の形によっては欧州経済に大きな打撃となる。欧州大陸の多くの国でも政治的な動揺が続いており、特に欧州経済を支えてきたドイツでメルケル首相の影響力が低下していることが気になる。

新興国でも不安な状況が続く。アルゼンチンやトルコなどの国では、資金流出の圧力によって通貨下落や激しいインフレに見舞われている。資金流出のリスクに直面している途上国や新興国は少なくない。こうした背景には、米国で金利が上昇しており、世界の資金がそこに向かっていくということがある。

このように世界のあちこちで起きていることを見ると、世界経済には危険がいつぱいということがよく分かる。こうしたリスクが顕在化しないことを祈るばかりだが、地震や台風と同じで、経済危機は回避できるものでもない。重要なことは、万が一危機が来たら、それにどう対応するのかということだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。